

別冊

# 地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和3年9月15日)

1 スポーツ戦略会議の開催結果について

【スポーツ課】・・・ 2ページ

地域づくり推進部

## スポーツ戦略会議の開催結果について

令和3年9月15日

ス ポ ー ツ 課

東京2020大会には、本県からは史上最多となる7名のオリンピック及び1名のパラリンピアンを輩出し、また、東京2020大会開催を契機とした事前合宿誘致活動においても、3つの海外代表チームが本県を事前合宿地として正式決定する等の成果も挙げました。

3年後には、次回パリ大会が開催されることから、スポーツ関係団体の皆さまに参集いただき、東京2020大会までの取組の振り返りと、そのレガシーを継承・発展させていくための今後の取組方針について総括的に議論するため、スポーツ戦略会議を下記のとおり開催しました。

### 記

#### 1 日 時

令和3年9月14日（火）午後3時30分から4時30分まで

#### 2 場 所

ホテルモナーク鳥取「久松の間」

#### 3 出席者

知事、教育長、鳥取県スポーツ協会会長、鳥取県障がい者スポーツ協会会長、鳥取県高等学校体育連盟会長、県内各競技団体の長（陸上競技、ボート、ホッケー）

#### 4 内 容

- (1) 東京2020大会までの総括について
- (2) 今後のスポーツ振興について（意見交換）

#### 【方針案】

- 選手強化の方針については、これまで取り組んできた、「東京オリ・パラターゲット競技事業」「世界で活躍するスポーツ選手支援事業」「ジュニアアスリート発掘事業」を、2024パリ大会を目指す選手を支援する取り組みへと継承するとともに、指導力の高い教員がオリパラを目指す選手の指導に専念できる体制を継続させる。
- 大会・合宿の誘致については、ジャマイカとの交流継続・深化、世界パラ陸上事前合宿誘致等をはじめ、スポーツクライミングフランス代表等海外チームの合宿受入を継続するとともに、とっとりコンベンションビューロー等と連携して国内大会や合宿の誘致活動を強化していく。
- 障がい者スポーツについては、ノバリア及び中西部サテライトセンターで開催されるスポーツ教室等を活用して障がい者スポーツの裾野拡大を図るとともに、競技力の高い選手の発掘・育成に取り組んでいく。

#### 【主な意見】

- ・オリパラを目指す優秀選手の海外遠征への支援は大きな成果をあげた。支援を継続すべき。
- ・ジュニアアスリート発掘事業は12年後に鳥取で開催する国民スポーツ大会に向けても欠かせない。引き続きの支援をお願いしたい。
- ・子どもの数の減が指導者（教員）の減に繋がる中、指導者を確保していくことが重要。
- ・教員の働き方改革で、中高校生の土日の部活動については今後学校から地域へ移行を進めていくことになるが、子どもたちの熱意や活動が継続できるための取組としたい。
- ・スポーツに取り組む特別支援学校や小中高の障がいのある子どもの発掘と支援を進めて欲しい。
- ・キャンプの誘致は、ナショナル・プロ・実業団などどのチームでもレベルの高いチームを招けば効果はあり、県内チームのレベルアップにつながる。

⇒今後、方針案のとおり、これまで取り組んできたことを継続させる方向で次年度以降の取組内容を検討していく。